

答辞

やわらかな日差しや吹く風に、春の足音を感じられるようになりました。三年前の入学式の日から季節は巡り、いよいよ旅立ちの時を迎えました。私たちMGS第四期生の百十六名は、慣れ親しんだ明星高等学校に別れを告げ、本日、卒業いたします。世界中で新型コロナウイルスが猛威を振るい続け、各地で多くのイベントが中止・延期されるなか、卒業式を挙行していただいたことを、校長先生はじめ諸先生方に心よりお礼申し上げます。

三年前の春。真新しい制服に身を包み、期待と不安に胸を膨らませ、明星の門をくぐったことが、つい昨日のことのように思い出されます。長いようで短かった三年間。振り返ってみると、数多くのことを学び、たくさんの人と出会い、そしてさまざまなことを経験してきました。その一つ一つが、かけがえのない思い出となって頭の中に浮かびます。授業の内容が中学時代と比べ格段に難しくなったことを実感し、一生懸命に取り組んだ日々の学習活動。先輩の背中を追い、後輩を導きながら、自分自身を成長させてくれた部活動。初めてのクラスTシャツに心躍らせながら、クラスの魅力を存分に出し切った一年次の明星祭。オンライン授業や分散登校の合間に、コロナ禍とは思えないほどの盛り上がりを見せた二年次の体育祭。そして一番の思い出は、一年間待つて漸く実施できた三年次の研修旅行です。この旅行を機に、私たちは自分至上最大の挑戦となる大学受験に向かってMGSの生徒全員で走り出すことができました。このように三年間の思い出が一つ一つ鮮明に蘇ってくるいま、この場を借りて感謝の気持ちを伝えたい人がたくさんいます。

はじめに先生方。学習面はもちろん、生活面でも多くのことをご指導くださいました。勉強や部活動、進路選択で悩んでいる時に、優しく手を差し伸べ、いつも親身になって相談に乗ってくださいました。時には厳しい言葉もありましたが、その言葉の裏には先生方の優しさが垣間見えました。その温もりある言葉は、私たちの心に一生残ると思います。自ら抱いた高い志に向けて、三年間頑張り続けることができたのは、先生方のおかげです。本当にありがとうございます。

次に、私たちの一番の理解者である、お父さん、お母さん。私たちの思いを真正面から受け止め、いつも私たちの意思を尊重してくれました。大きな決断をした時も、途方に暮れて立ち止まった時も、そっと背中を押し、笑顔で見守ってくれました。私たちの夢を誰よりも応援してくれる家族がいたからこそ、ここまで歩んで来られたのだと思います。今までありがとうございます。

最後に、三年間共に過ごした同級生のみんな。時には一緒に笑い、時には一緒に泣いたみんなは、私にとって大切な仲間です。三年間、学級委員長を務めてきて、強く感じたことがあります。それは、私たちがクラスだけでなく、学年全体で団結していたということです。クラス対抗の体育祭で自分たちが負けても、勝ったクラスを讃えていました。コロナ禍という歴史上まれに見る逆境を共に乗り越えてきた仲間だからこそ生まれた絆です。多くの制約があっても、できることを精一杯考え、辛くても逃げずに立ち向かえたのは、みんなの存在があったからだと思います。みんな、今まで本当にありがとう。

私の大好きなウォルト・ディズニーの言葉に、このようなものがあります。

The flower that blooms in adversity

is the rarest and most beautiful of all.

逆境の中で咲く花は、どの花よりも貴重で美しい。

私たちはこれから別々の道を歩んでいきますが、その先にはさまざまな困難が待ち受けていることでしょう。私たちが高校に入学してすぐに令和の時代が幕を開け、翌年には新型コロナウイルスの影響で世の中が一変し、今までの当たり前が当たり前ではなくなりました。そんな社会を生き抜くためには、自ら考えて積極的に行動し、国境を越えて協力すること、つまり、私たちがMGSで学んできた「自立と協働」が求められます。このMGSの理念を忘れることなく、逆境に立ち向かってきた知恵や勇気を思い出し、目の前に立ちはだかる困難を全力で乗り越えていきたいと思っています。

三年前の春には漠然としていた自分の夢が、今では己の志としてはっきりと見えています。この揺るぎない志を高く持ち続け、和の精神のもと、世界に貢献できる人間になることを誓います。

最後になりましたが、明星高等学校のますますのご発展と、皆様のご多幸を心より祈念し、答辞といたします。

令和四年三月一日

卒業生総代

永田妃美花